

令和7年度 第3回 国立大学法人三重大学経営協議会 議事概要

日時 令和8年1月23日（金）16時30分～17時30分

場所 事務局2階 大会議室

【一部の構成員等（※を付した者）はオンラインで出席】

出席者 伊藤（正）学長（議長）

伊藤（歳）、大友、末松、河上、馬岡※、丸山、服部、諸岡、横山 各学外委員
金子、湯浅、佐久間、織田島、西岡、田中※ 各学内委員

欠席者 竹林 学外委員

陪席者 中津、小川 各監事

企画総務部長、財務部長、企画総務部総務チーム

I. 審議事項

1. 給与改定の方針（案）について

学長から、「資料：審－1」に基づき、給与改定の方針（案）について説明があり、審議の結果、原案どおり承認された。

2. 第4期中期計画の変更について

学長から、「資料：審－2」に基づき、第4期中期計画の変更について説明があり、審議の結果、原案通り了承された。

3. その他

なし

II. 報告事項

1. 令和8年度予算（予定額）の内示について

織田島理事から、「資料：報－1」に基づき、令和8年度予算（予定額）の内示について報告があった。

2. その他

（1）令和8年度国立大学法人三重大学経営協議会開催日程について

織田島理事から、「資料：報－2」に基づき、令和8年度国立大学法人三重大学経営協議会開催日程について報告があった。

（2）次回開催について

令和8年3月13日（金）13時30分～（予定）

Ⅲ. 意見交換

1. 2040年の三重大大学の在り方について

<主な意見>

- 2040年には18歳人口が現在より約25%減少するという推計に基づき、学費収入や病院収益の減少を織り込んだ具体的な収支見通し（財務シミュレーション）を作成し、経営判断の材料とすべきである。
- 三重県北部の「ものづくり」や南部の「観光・一次産業」など、地域の産業構造に合致した人材育成が不可欠である。
- 文系・理系を問わずAIやITスキルを共通の常識として身につける教育が必要である。
- 地域や産業界のニーズだけでなく、「学生がどのような基準で大学を選ぶのか」という視点が不可欠である。高校生が重視する「教育環境」「出口（就職）」、およびタイパ・コスパ意識に対し、対面型大学ならではの「リアルな体験」「地域課題への直接的な関与」「企業との密接な連携」といった、独自価値を明確に打ち出す必要がある。
- 企業が求めるIT人材の不足に対応するため、社会人を対象としたリスキリング（学び直し）の場としての機能を強化し、社会のトレンドに合わせた知識提供を行うべきである。
- 農業と福祉の連携（園芸福祉）のように、単一の専門性では解決できない課題が増加している。学部の壁を取り払った「文理融合」の領域を創出し、複数の分野を跨いで活躍できる人材を育成すべきである。
- 2040年においても、消防、医療、介護、公務員といった地域社会を支えるエッセンシャルワーカーの需要は変わらない。これらの人材を確実に育成し、地域に定着させることは三重大大学が担う重要な使命である。
- 若者のグローバル感が薄れ海外駐在を避ける傾向にある中、地域を支えつつ世界と関わる意欲を持つ人材をいかに育成・定着させるかが課題である。
- ITの世界で2010年に起きたことは現在も大きくは変わらない。2040年と言えども2026年の今からの地続きであり、文系・理系を問わず生成AIはじめITスキルを共通の常識として身につける教育が必要である。

2. その他

なし

以上